

「“とかいなか”からの提案」
(高崎商科大学商学部 熊倉教授 著)
編集委員意見 大川 信行

1. これまでも北関東（茨城県・栃木県・群馬県）の在り方と実勢については、経済的側面から郷土愛といった気持ちの側面まで、とにかく議論や話柄に上る機会が多いものの、この問題を取り上げて論文の域まで至らしめて論じているものはそう多くないと思う。その点において本論の着眼点は良いし、その内容には深い興味がわく。

2. 本論で取り上げている“とかいなか”とは、都会にある高い利便性と田舎ののんびりした暮らしのどちらも両立できるようなエリア（都会と田舎の中間地点。都心から1～1.5時間程度のエリアを指すことが多い）のこといい、最近では、少しずつ市民権を得ているようである（“まちなか”という言い方を連想させる側面もあるのか）。

本論では、この“とかいなか”を「都道府県別魅力度ランキング」（対象地域 1,047、回答者全国3万人、インターネットによるアンケート調査）を用い、魅力度に関する指標から抽出した。一般には、都心から1～1.5時間程度のエリアを指すことが多いが、この距離的基準より、より包括的な魅力度から抽出した手法は評価できる。

また、「都道府県別魅力度ランキング」は、アンケートによる心情結果であるため、これを次々章の「数値で見る“とかいなか”」で、①面積・人口、②農業・工業、③観光力、④多様な文化遺産と“湯”と“水”、などの数値で検証・分析しているのは、当然とはいえ評価できる。

なお、論者自身も、今後、関西圏や福岡県についても論じる用意があるとの認識なので、これについても期待したい。

3. 北関東という地域の法的論拠について、「すでにあった“とかいなか”の法的定義」で指摘しているように、法的枠組みはできている。問題は、現下の経済社会の激しい変動を受けて、この枠組みで当該圏域の実勢がそうになっているのか、今後どうするのか、などの論が求められる。

この点について、「数値で見る“とかいなか”」の4分野として「北関東1：面積・人口」、「北関東2：農業・工業」、「北関東3：観光力」、「北関東4：多様な文化遺産と“湯”と“水”」の各節において、具体的数値による実勢を示してくれており、今後、更なる論を進める入り口を示してくれている。

4. 「“とかいなか”からの提案」では、①企業版ふるさと納税などを活用した好循環、②BCPの拠点に、③外国籍住民の日本文化伝授の拠点が提案されているが、そのすべての提言を基本的に支持したい。ただ、細かいことながら、理解を深めるための意見が若干ある。

①に関して、

- ・ 工業誘致の効果の1つとして、従来の雇用効果でなく、人材導入効果を指摘しているのは慧眼である。
- ・ 企業版ふるさと納税の効果を評価しているが、この納税が効果を発揮するメカニズムをより具体的に解いてほしい。
- ・ 圏域全体で取り組む必要性を説いているには同感である。ただ、この地域は、かつて“FIT構想”（福島・茨木・栃木間の観光・移住促進等の地域連携を目指したが、地域特性の違いから消滅）の苦い経験を持っていることから、今後、圏域内の取り組み方法を考える場合には、一段の工夫が必要であると思う。

②に関して、

- ・ 企業版ふるさと納税の効果が、BCP発動拠点にどう結び付くのかを、より詳しく説明してほしい。

③に関して、

- ・ 北関東では著しい“多民化”が進んでおり、論者指摘の“日本企業文化伝授の拠点”のほか、今後、色々な関連プロジェクトの展開が可能なので、今後の展開に期待したい。

5. 以上を総ずるに、着眼点に優れた論文であり、提案が達成することによる国・地域政策上の効果は大きい。本論をベースに更なる論の展開をお願いしたい。

(以上)